様式第３号

会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名
（付属機関等名）</td><td colspan="3">第１回川西市次世代型移動サービス推進会議</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td colspan="3">土木部交通政策課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 日 時</td><td colspan="3">令和元年７月８日（月）13：00～14：40</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 場 所</td><td colspan="3">キセラ川西プラザ　福祉棟　２階共用会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出
席
者</td><td>委　　員</td><td colspan="3">日野 泰雄、松中 紗恵子（代理）、奥野 雅弘、森田 強
野澤 俊博、金澤 重之、岩野 住之、三宅 豊文（代理）
登日 幸治、廣地 正行、松尾 貴司</td></tr>
<tr><td>そ の 他</td><td colspan="3">坂 俊介、塚原 忠義、図子 純也
松木総合政策部長、阪上市民環境部副部長、松井都市政策部長、酒本土木部長</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="3">五島土木部副部長、的場政策創造課長、小西交通政策課長、
本城交通政策課長補佐、麻生主査、西中</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td>可</td><td>傍 聴 者 数</td><td>３名</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 次 第</td><td colspan="3">1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員委嘱
4. 委員紹介及び川西市次世代型移動サービス推進会議について
5. 会長、副会長の選任
6. 議事
7. その他
8. 閉会</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 結 果</td><td colspan="3">別紙審議経過の通り</td></tr>
</table>

審 議 経 過（要旨）

１．開会

〇事務局より開会の宣言

２．市長あいさつ

〇越田市長よりあいさつ

３．委員委嘱

〇代表して日野委員に委嘱状交付

４．委員紹介及び川西市次世代型移動サービス推進会議について

〇委員名簿により各委員の紹介。

〇事務局より川西市次世代型移動サービス推進会議規則、推進会議公開運用要綱並びに傍聴要領の説明。

〇推進会議の趣旨等について、国が推進する情報通信技術を活用した新たなモビリティサービスへの取組みを踏まえ、本市においても新たな施策や取り組みの調査・研究の提言や審議等を行うため、市の付属機関に位置付けて設置した。会議での進捗状況を踏まえ、平成 27 年３月策定の川西市公共交通基本計画を総合的に検討する必要があると考えている。

〇川西市の目指す将来像について、オールドニュータウン化が進み、高低差の大きい坂道が負担になり、買い物や通院などの団地内への移動が課題となるなか、駅や停留所と住宅間（自宅）を担う交通モードの充実を図るために、モネ・テクノロジーズのシステムを利用しオンデマンドモビリティサービスの導入を行い、あらゆる人が移動しやすい環境づくりを目指す。

〇新たなモビリティサービスの進展により、より高付加価値で快適な移動を実現し、若い人達が居住し多世代が交流するニュータウンの活性化を目指す。

5. 会長、副会長の選任

〇事務局一任により、日野委員を会長に、松村委員を副会長に選任

〇日野会長よりあいさつ

6. 議事

（１）オンデマンドモビリティ実証実験の仕組みについて

【事務局説明】

〇実験対象地区の住民に対して市から周知及び参加の協力の呼びかけを行い、事前登録の上利用していただく。

〇交通事業者に関して、モネ・テクノロジーズのシステムにより、ユーザーからのアプリまたは電話によるオンデマンドの予約に対応。

〇道路運送法 21 条における乗合旅客運送により、オールドニュータウン内の移動を原則として、自宅または設定する停留所から生活関連施設への運行を想定。

○検討課題として、対象地区の選定、運賃の設定や運行時間、予約受付時間の設定、そして何よりも運行事業者の選定がある。

【主な質疑】

○道路運送法 21 条での実験なら、既存の路線バスはどうするのか。

→　競合をしないような形で検討を進めている。

○住民との意見調整はどうなっているのか。

→　対象地区を絞った後に住民への説明とニーズ把握等を行う。

○実証実験の始まり方によっては、対象地区から昼間のバスが無くなることになると思うので、市の責任として施策を進めていただきたい。

→　地区のニーズを踏まえて、事業者との協力の下進めたい。

○（会長）会議の進行上、まずはシステムについて理解していただいた上で、地域ニーズとシステムがふさわしいような条件に合った対象地区の選定を考えていると思う。地域のニーズにどのくらい応えられるのか示していただくことにしたい。

市の公共交通基本計画で基幹交通として設定されている能勢電鉄と阪急バスにどうアクセスするのか、さらには地域内移動をどう考えるのかといった大きな課題への解決の糸口になるべく考えていただきたい。

○最近よく聞くが MaaS は先端技術で、スマホで予約して決済されてと便利との話だが、高齢者はスマホに一番遠い方たちなので、使ってもらえるような仕掛け考えているか。

→電話予約を併用して使うことで、幅広い方々が利用しやすくなると考えて検討している。

○（会長）他の自動運転の実証実験でも、スマホやパソコンから予約は難しいことから電話オペレーターで対応している。いかに使いやすいものにするのか考える必要がある。高齢者向けの使い方説明会を開催するなど工夫されたい。また、他の事例についても紹介いただきたい。

○広島県福山市の服部地区という中山間地域で高齢者率の非常に高い地域の事例では、非常に赤字路線で路線バスが撤退する話がある中で、昨年の水害で道路に被害が出たこともあり、赤字補填を減らしたいという思いでオンデマンドタクシーの実証実験を行っている。

予約方法は電話とアプリが用意されたが、利用のほとんどは電話である。アプリは、特に後期高齢者には難しいため、もっと簡易にしていかないと難しいと思う。

実証ではなく既に運行している愛知県の豊田市の事例では、アプリでの予約を行っている。そのために講習会を何回も開催している。加えて、わざわざ呼ぶ必要があることの心理的ハードルはかなり高いと感じている。

○このデマンドの導入はどういう課題に対して対応するのか。ある程度ターゲットを絞るべきではないかと思う。

○タクシーとの差別化やすみ分けは、どういうふうに考えているのか。

○交通政策としての施策であれば赤字が課題となるが、福祉施策であれば赤字の概念は特段問題ないと思う。交通施策なのか、福祉施策なのか。

→　オンデマンドの目的は地区内交通への対応であるが、選定地区の実態を踏まえた真のニーズに応えるような形態を考えていきたい。

→　タクシーとのすみ分けについては、事業者が決まり次第協議したい。

→　当然財政的な面も含めて市サイドでの協議が必要だと思っているので、今協議を進めたい。

○大きな方向性としては交通施策として取り組んでいるが、福祉的な要素があれば福祉部局による福祉政策もあり得ると思う。住民ニーズへの対応については、実際やってみないとわからない部分もあると思っている。

高齢者に対応した施策も重要だが、加えて若い人が住みたいと思うサービスを提供できるかどうかも大事だと思う。そういう意味では、IT を中心とした技術開発に馴染めない人を救っていくための検討を５年から 10 年ぐらい進めながら、20 年 30 年後の世界を見据えていく必要があると考えているということを報告しておく。

○（会長）最終的には都市政策をどうするのかという問題になる。基本的には人口密度を高めなければ、水道や交通などを含めた公共サービスが効率よくは提供できないので、最終的には都市の再編をどうするのかということになり、その意味からもニュータウンの再編は大きな問題になっている。

そういった再編までの間、今、移動が困難になっている方々に対してどんなサポートができるのかは喫緊の課題だと思う。福祉として地域包括の中にも移動を入れるということも当然出てきていると思うので、もう少し幅広く議論する必要があると思う。

オンデマンドサービスが上手くいっているところは少なく、サービスを続けるためには地域の方々がどれくらい一緒に頑張れるかだと思う。どうすれば使い勝手の良いサービスが可能か、その課題共有のためにも、さらに情報や意見をお願いしたい。

○オンデマンドが大量輸送機関に引き継ぐための移動手段であると考えると、運行範囲のイメージで幹線をまたぐのはあり得ないと思う。自宅からの放射状ではなく、ハブ＆スポーク的な形がイメージできるような絵でないと誤解を招くおそれがあると思う。

○（会長）デマンドには固定ルート型もあればフルデマンドもあるので、そのあたりも今後地元も詰めていただきたい。目的地をどうするか、どういう形が望ましいのかについても議論いただきたい。

○実証実験の他地区への横展開について、実証実験期間のイメージや横展開を含めた将来的なスケジュールのイメージを明示してほしい。また第２段階として、バスとの連携があったが、どのぐらいの将来を考えられているのか教えていただきたい。

→　実証実験においてはデータ収集も含めて２年を想定している。その中で、人の移動などのデータを収集し、半年あるいは１年区切りでデータの検証を行い、他地区への展開の可能性についても検討していきたい。

バスとの連携については、特に競合するような形でオンデマンドの実証実験や本格運行は考えていないので、料金を含めて、バスと連携するような施策を考えたいと思っており、委員の皆様からの提言をお願いしたい。

○他地区への横展開は、２年間の実証実験の間に並行して考えるという理解でよいか。

→　並行して２年ではなく、横展開ができるのかどうかも含めて考えたいと思っている。

○（会長）横展開に何が必要なのかという点が重要です。他の自動運転の実装実験でも、横展開のことが示されているが、実験は上手くいくところが選ばれるために、どこでも上手くいくとは限らない。つまり、システム以外に地域のコミュニティの熟度やニーズなどが、横展開への重要な要素となる。事務局案の半年あるいは１年での検証の際には、システムや情報系のチェ

ックだけでなく、コミュニティの関係等についての協議が不可欠になると思う。
バスとの連携や鉄道との接続については、MaaS の基本が運輸連合であることからも、将来的にも重要な課題である。公共交通の維持を考えると、関西は私鉄大国ではあるが、やはり運輸連合が実現しないと使いやすい仕組みにならないと思う。このあたりは運輸局にぜひ頑張っていただきたいと思う。

（２）実証実験対象地区について

【事務局説明】

○候補地として、多田グリーンハイツ、大和団地、清和台の３つのオールドニュータウンを想定している。

○いずれも現在も１万人を超えている大規模な団地だが、65 歳以上が 40%、75 歳以上も 25%を超えつつあるなど高齢化が深刻となってきている。

○地元で交通の取り組みが行われており、グリーンハイツでは互助の輸送、清和台ではタクシーの貸切りによる２週間の実験、大和団地では利用促進活動をされている。

○各団地の課題として、グリーンハイツの互助輸送では運転手の確保と利用者の減少傾向、清和台での買い物タクシー試験運行では地元の想定より利用者が少なかったことと費用面での継続困難、大和団地については全国的な問題となっている運転手不足もあり、現在の市の補助金額では運行の維持が困難であることや路線の複雑さが課題となっている。

【主な質疑】

○（会長）実験対象候補地として３つの団地について説明いただいたが、どこも課題があって、特に利用者の減少が挙げられている。これは不要なのか、不便だから使えないのかという点が大事だし、地域の積極的な協力が必要かと思う。多田では制度上の問題があるようであり、清和台での費用負担、大和団地での市からの 1500 万円の補助といったように、いずれも解決すべき問題を抱えている。

○利用者が少ないというのが課題ではなくて、どういう移動ができないということが課題だと思う。そういう意味では、利用者が少なくても問題ないかもしれないので、既にわかっている部分があるのであれば教えていただきたい。

→　地元の話だと、多田グリーンハイツでは、新規利用者もいるが、高齢化の進行により施設への入所や亡くなられたりして、全体として利用者が減少しているとのこと。
清和台では、商業施設と医療施設の集まっているトナリエに横断幕やのぼり・チラシを配布するなどされていたが、運行終了後に初めて知った人や次はいつするのかという声もあり、周知が足りなかったと考えられていた。

○利用者が減っているということは、目的やそういうものがあるところに特定されるように思うが、問題があるというところはどうか。

→　地域の方々に聞くと、坂道が多いため車で買い物をしているが、車が乗れなくなった時の移動手段を不安に思っているとのこと。

○（会長）買い物でいえば生協が入っていたりして、それぞれサービスがあると思う。問題は、高齢化が進んで目的がなくなると行き先もなくなり、全体として移動量が減ってしまうということ

だと思う。
都市政策としてどういうまちづくりをするのか、高齢者の人たちにどういう生活をしてもらうのかということを考えた上で、モビリティを考えてほしい。
将来的に目的を作っていくということを考えた時に、どんなシステムが必要になるのかということもぜひ考えていただきたい。
基本計画策定の際には、パーソントリップ等のデータを収集していただいたが、時間も経過し、これから10年20年後さらに高齢化が進んだ時にどうするのか、そういう時代を見据えて役に立つのかどうかを実験しようよということもあろうかと思う。地域の事情を勘案しながら地域との話し合いをしっかりしていただきたい。乗ってみようと、もっとみんなで動かしてみよう、町を元気にしようということを言っていただく道具になればいいと思う。

○将来的に自動運転車の導入とあるが、今の議論の中ではそこに行き着かない気がする。法律上の問題など、自動運転では課題がたくさん出てくると思うし、この中で見つけていくことも必要と思う。後ろ向きの話ばかりではなく、前向きにこうしたら次のステップに進めるといった議論がないと思うが、どうか。

○（会長）ぜひ前向きにご検討いただければと思う。高齢者だから移動しなくていいとはならない。自動運転にしても、将来的に個別輸送か大量輸送かが問題。個別輸送で展開していくと、従来型の公共交通は不要ということにもなりかねない。MaaSは違うと思う。
すばらしい技術でも、将来の街づくりに合わないような仕組みになってしまうこともあると思うので、皆さんのそれぞれの立場でいろいろ考えていただきたい。当面はこれをいかにうまくやっていけるかということが懸念されるところなので、このシステムを動かしていくために、皆さんにバックアップをお願いしたいということだろうと思う。
大事なことは、どこで、どういう人たちのニーズに合わせて、誰が、どんなふうに運用するのかということだ。今後、それらを具体的に検討いただき、実験の実現に向かう必要があると思う。
今日の議論を踏まえて何か懸念されることがあれば、事務局にアドバイスやご提言をいただきたい。

7．その他

【事務局説明】

○当初の実証実験を今年度下半期に予定していたため、法定手続等も考える中で、時間的にもかなりタイトなスケジュールになっている。

○予定として、7月の下旬には2回目を想定しているが、まだ日程を提示できていない。

○タクシー業界に説明会を予定しており、結果を2回目の会議の中で報告したい。

○（会長）非常にタイトということ。10月に実証実験を開始するなら、2回目には、地区や事業者、運行計画等についてある程度固めないといけない。

○（会長）2回目には具体的な議論をしていただくことになるので、事務局には必要な準備をしていただきたい。このスケジュールで大丈夫かという懸念もあろうが、事務局の決意表明でもあろうかと思うので、各委員には、必ず用意してほしいことがあればアドバイスいただきたい。

○将来を考えるのに新たな特色が今のところ見えなくて、どちらかというとデマンド輸送のこと

ばかりになっている。トランスログでの収集データやサービス提供、アプリなど特色として何があるのか、次回にはぜひ詳細な資料を出していただきたい。

○（会長）今日の会議の中では出ていなかったので、次回には是非お願いしたい。ところで、今までの事例でもアプリはまだなのか。

○次回には資料を用意して説明したい。また、今動いているアプリもあるので、具体的にお示ししたい。お年寄りには使いにくい仕様になっているのかと言われると、残念ながら正直まだ使いづらいところが正直あると思う。

○そこが今すごく求められていることだとは思う。30 年後の高齢者は皆スマホを使えると考えると、今、高齢者が使いやすいものを出さないと、時期を逸すると思う。

○（会長）次回、実験に向けてかなり具体的な内容を出していかないといけないので、その際にはシステムの方についても、今ご指摘いただいたように資料の提出と説明をお願いしたい。他に、宿題とすべきことはないか。

○今回の実験では、地区居住者全員を対象にしているのか、あるいは会員制を考えているのか。グリーンハイツでの実験が会員制であれば、置き換えということも考えられるし、そのあたりについても教えていただきたい。

→　現時点では、地区に住まわれている方を利用対象とし、運行を利用されるには事前に登録をしていただくことを考えている。

○（会長）対象をどこにするのか分からないが、広く周知しないとトラブルの原因になると思う。この後も、何か課題・宿題を思いつかれたら、事務局にご一報をいただきたい。

非常にハードなスケジュールの中、次回は中身についてかなりの議論をいただくことになろうかと思うが、本日の会議についてはこれで閉会させていただく。

８．閉会